

「公民の勉強をすると、100万円もらえるらしい」と聞いて、もしそれが本当の話なら、本気で勉強しますよね？ じつはこれ、わりと本当の話です。

なぜなら、公民は日常をより豊かにするために必要な知識だからです。

たとえば、日本には国や都道府県などの地方公共団体の社会保障制度がいろいろあります。条件にもよりますが、申請するだけで数万円から数十万円のお金もらえる制度がいくつもあるのです。もちろん、その制度を知らなければ申請できません。実際、本来もらえるお金を、制度を知らないために受け取れないという人も少なくありません。

「知っている」と「知らない」。この違いは日常に大きくかわってきます。というより、公民は日常そのものだといえます。「日常」と「知識」という言葉をつなげると「常識」となります。

「公民」は「常識」です。いつそのこと、「公民」という呼び方を「常識」に変更したほうがいいのか、と思っています(笑)。社会の常識である以上、身につけないと日常生活を送るうえで、損をしてしまうことが多くなります。

でも、「そんなの大人になって社会に出てからの話でしょ」って思うかもしれませんが、では、キミが社会に出るまでの期間はあとどれくらいでしょうか。18歳になれば選挙権を与えられます。投票することによって、国の政治に参加することになります。それは、そんなに先のことではありません。社会常識は選挙権を与えられると同時に、自動的に身につくものではありません。今から知識をつけていくことで、より豊かな生活を送れる社会に変えていく力を手にすることができるのです。知識がないと、社会への関心が持てません。関心がないと、選挙権を与えられても投票に行かず、棄権することになります。そうすると、投票した人たちだけに有利な社会になりかねません。

公民を勉強すると、**国語の論説文も読解しやすくなります**。世の中で起きている問題に関する知識がつくと、国語の論説文を読んだときに「筆者が言っていることは、よく言われていることだよな」というように、余裕を持って読み進められるようになります。

また、グローバル化や情報化社会の問題、地球環境問題、エネルギー資源問題、紛争や貧困問題など、地球全体の問題は世界の国ぐにが知恵を出しあって行動しなければ解決できません。そのため、公民の内容をただ暗記するのではなく、「なぜ、そんな問題が起きているのか」という背景を理解してください。

これは、歴史の勉強と同じですね。

ただ、歴史の勉強と違う点があります。それは、「**どうすれば解決に向かえるのか**」という視点を持つことです。歴史は過去のできごとですが、**公民で扱われている問題は、現在発生中の問題**です。これらの問題は、キミが大人になる頃には、今以上に深刻な問題になっていると予想できるものばかりです。「自分ならどうやって解決するか」と自分自身に結びつけて勉強すると、頭に残りやすくなります。

このように**考えながら勉強**することで、いろいろな問題に対しての理解が深まり、公民のテストの点数はもちろん、論説文の読解力も上がります。作文・小論文の記述力も上がります。入試の面接でも、より深い受け答えができるようになります。

もうひとつ、公民を勉強する意味を伝えておきます。公民を勉強すると、キミ自身にメリットがあるだけでなく、なんと……世界平和にもつながるのです！ そんな大げさな……って思いましたね(笑)。では、この参考書の本編、最後の内容をちょっと見てみてください。世界平和について書かれていますね。公民では、日本の仕組み、世界の仕組みを学んでいきます。ただ、完璧な仕組みなど、存在しません。だから必ず問題が発生します。**「仕組み」とそこから発生する「問題」を知り、その問題の「解決策」を考えると、公民を学ぶ意味がある**のです。知ったうえで、考える。これが、世界平和に近づく第一歩です。

「でも、公民ってなんかムズカシイ言葉がたくさん出てくるから苦手なんだよな～」なんてまだ思っているキミ！ 安心してください。大丈夫です。この参考書はそんなキミのために作りました。

「一つひとつの言葉の意味を調べているうちに、全体の内容がわからなくなってしまった！」……そんなことがないように、難しい言葉には説明を加えています。「議決」「決議」「発議」……確かに公民には難しい言葉がたくさん出てきます。だから、本書では、授業のようにわかりやすく説明しています。

どうですか？ 今すぐ100万円をもらえなくても、公民を勉強する気になってきたのではないですか？ (笑) それでは、キミのためにも、世界平和のためにも、どうぞ本編にお進みください。

はじめに 2
本書の使い方 8

第1部 生活編

第1章 現代社会の特徴

テーマ1 グローバル化 10
テーマ2 情報化 14
テーマ3 少子高齢化 16
テーマ4 「持続可能な社会」に向けて 18

第2章 生活と文化

テーマ5 生活と文化の役割 20
テーマ6 伝統文化 22
テーマ7 多文化共生 25

第3章 現代社会での物事の見方や考え方

テーマ8 社会集団での生活 26
テーマ9 効率と公正 28
テーマ10 決まりの決め方 30

第2部 憲法編

第4章 人権と日本国憲法

テーマ11 人権の歴史 34
テーマ12 日本国憲法 37
テーマ13 国民主権と天皇の地位 41

テーマ14 日本の平和主義 44

第5章 人権と共生社会

テーマ15 基本的人権と個人の尊重 49
テーマ16 平等権 53
テーマ17 自由権 58
テーマ18 社会権 60
テーマ19 人権の保障 63
テーマ20 公共の福祉と国民の義務 65

第6章 これからの人権保障

テーマ21 新しい人権 69
テーマ22 グローバル社会と人権 73

第3部 政治編

第7章 現代の民主政治

テーマ23 民主主義と政治 78
テーマ24 政治参加と選挙 81
テーマ25 政党と政治 86

第8章 政治の仕組み

テーマ26 国会 90
テーマ27 内閣 97
テーマ28 裁判所 104
テーマ29 裁判の種類と人権 106
テーマ30 司法制度改革 109
テーマ31 三権の関係 111

第9章 地方自治

テーマ32 地方自治と生活 115
テーマ33 地方自治の仕組み 117
テーマ34 地方財政の仕組み 121

第4部 経済編

第10章 消費生活と経済

テーマ36 消費生活 126

テーマ37 消費者の権利 131

テーマ38 商品の流通 134

第11章 生産と労働

テーマ39 資本主義経済 138

テーマ40 株式会社 141

テーマ41 労働と労働者 144

テーマ42 多様化する労働 146

第12章 市場経済と金融

テーマ43 市場経済の仕組み① 148

テーマ44 市場経済の仕組み② 152

テーマ45 金融機関 154

テーマ46 金融政策 157

第13章 政府の役割と国民の福祉

テーマ47 財政 161

テーマ48 政府の役割と財政の課題 164

テーマ49 社会保障 167

テーマ50 少子高齢化と財政 169

第14章 これからの経済と社会

テーマ51 公害の防止と環境保全 172

テーマ52 グローバル化する経済 175

テーマ53 豊かさとは 178

第5部 国際編

第15章 国際社会

テーマ54 国際社会と国家 182

テーマ55 国際連合の仕組みと役割 185

テーマ56 地域主義の動き 187

テーマ57 新興国の台頭 190

第16章 国際問題

テーマ58 地球環境問題 193

テーマ59 資源エネルギー問題 194

テーマ60 貧困問題 197

テーマ61 新しい戦争 201

第17章 これからの地球社会

テーマ62 文化の多様性 205

テーマ63 日本の外交の現状 207

テーマ64 世界とつながる日本 209

テーマ65 世界平和のために 211

さくいん 214

本文イラスト(顔アイコン)：けーしん
 本文イラスト：酒井由香里
 本文デザイン：田中真琴(タナカデザイン)
 校正：エデュ・プランニング、鷗来堂
 組版：ニッパプリントサービス

本書の使い方

この本は「中学公民」の内容を理解しやすくするために、先生のわかりやすい解説を聞いているように学ぶことができます。

まず、各章の冒頭で、ここではどんなことを勉強するのかを説明しています。そのあと、「この章のポイント！」で内容理解のためのキーワードを知り、「理解を深めるエッセンス」で、どんなことに着目すると理解しやすいのかを示しています。



各テーマの解説を読んで、理解を深めましょう。解説は、先生の授業を聞いているようなわかりやすい文章で、難しい用語や仕組みも、すっきり理解できます。

重要用語は赤字になっているので、赤シートで隠して確認することもできます。テスト前などは、赤シートを使ってどのくらい理解しているかをチェックしてみましょう。



「覚えておこう!」「知っていますか?」「整理しよう!」「少しくわしく」など、本文の解説のほかにも、理解を助けるコーナーが満載です。

「覚えておこう!」や「知っていますか?」、「整理しよう!」では、各テーマ全体が理解できるような、要点をふまえた内容を掲載しています。

「少しくわしく」では、少し発展的な内容を掲載しています。日本や世界の世の中のしくみや政治、経済について、少しずつわかってきたところで「少しくわしく」の内容を読んでもと、興味がいっそう深まっていきます。



「丸暗記ではなく、理解しながら」の勉強で、**公民の点数がぐんぐん UP !!**

第 1 部

生活編

第 1 章

現代社会の特徴

第 2 章

生活と文化

第 3 章

現代社会での物事の見方や考え方